



屋根に葺が生えてる電車は、
特急みどり。

実は、落語が嫌いでした

コント的な動きのある笑いが好きだったので、ホント、落語なんてあんな座布団に座って、お年寄り向けで、何をしゃべっているんだかって思っていました。それがね、今、落語会なんてやっているんだから笑っちゃうよねえ。落語に興味を持ったきっかけはNHKの『コメディ！お江戸でござる』の番組制作。プロデューサーから「江戸の人の気持ちになって番組を作って欲しい」なんて言われて、最初は「なにワケ分からないこと言ってるんだ！」と思いましたが(笑)。まっ、そこはグッとこらえて、江戸風俗研究家の杉浦日向子さんに相談したところ「落語をお聞きになるといいのでは？」とアド



バイスしてもらい、早速テープやCDを買ってきて、聞き比べをやったんです。三遊亭圓生、桂文楽、古今亭志ん生。これが実に面白かった。9年間、この番組に携わってきましたが、その間ずっと落語を聞いてたんですよ。これが今につながっていると思います。でも、まさか佐世保でやるなんて思わなかったなあ。

海老原さんは優しく楽しい人。私たちのレベルに合わせて笑わせてくれると笑顔

お咲ちゃん × 古川咲弥 広田中学校3年



人を笑わせることが大好き。落語は人を笑顔にする魔法だ〜と名言を吐く

大家さん × 江口慧 愛宕中学校1年



落語歴1年半。はなはだまだだけど、先生が面白いから練習が楽しいと愛らしい笑顔!

お雪ちゃん × 佐々木雪乃 大野小学校4年



客が笑ってくれると達成感あり。話すことを生かした仕事したいと愛嬌いっぱい!

棟梁 × 松尾壮馬 祇園中学校1年



海老原さんは自信を引き出してくれる人。笑いに対する思いが真剣で厳しくも優しい

お京ちゃん × 間京華 佐世保高等専門学校2年



落語歴7年!人を笑わせる落語に出合えて本当によかった。今年12月が最後の舞台

定吉 × 井上由一郎 佐世保北高校2年



インタビュー 海老原 靖芳

えびはらやすよし



Up Beat sasebo

「チャンチャンチャンチャカ」と出囃子の音が聞こえてくると、着物姿の子どもが舞台上に現れ、高座にスツと座ります。客に向かって深く頭を下げ、ひと通り会場を見渡すと、すかさず始まる佐世保版落語。放送作家・海老原靖芳氏が新たな目線で挑む落語の世界とは? ユーモアというリズムにあふれた海老原氏の創作落語について語ってもらいました。



● 1953年佐世保市生まれ。県立佐世保南高校、青山学院大学経済学部卒。コピーライターをしていたとき、日本テレビ「巨泉×前武ゲゲバ90分!」の特番で放送作家としてデビュー。ザ・ドリフターズ、コント赤信号、とんねるず、ビートたけしとたけし軍団などのコント台本を書き、「ドリフ大爆笑」「風雲たけし城」「志村けんのだいじょうぶだぁ」「吉本新喜劇」など数多くの人気番組を手掛ける。2010年に「佐世保かつちえて落語会」を立ち上げたのを機に佐世保へ帰郷。創作落語の台本を担当する



笑いで人を幸せに! 『佐世保かつちえて落語会』で、 軽快な笑いのリズムにハマる

